

平成21年度病害虫発生予報第3号(6月予報)

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

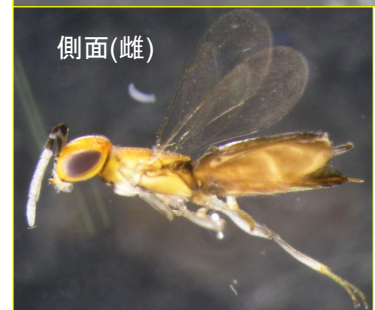
サトウキビコナカイガラムシ(サトウキビ)

(別名:カンシャコナカイガラムシ)

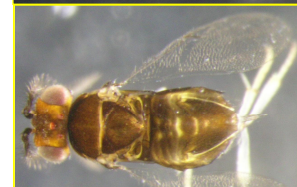
学名: *Saccharicoccus sacchari*



背面(雌)



側面(雌)



背面(雄)



側面(雄)

天敵寄生蜂

Anagyrus saccharicola

生態と被害

雌成虫は楕円～広楕円体でよく肥満する。体長は3.5～6mm、体色は淡桃色で、体表は白色粉状のロウ物質で薄くおおわれる。体周縁部のロウ質分泌物の突起はほとんどない。幼虫と雌成虫が地際部や葉鞘基部に群棲して吸汁加害し、発生が多いと糖度を低下させる。年数世代を繰り返し、年間を通して幼虫から成虫までみられる。雌成虫は成熟しても、卵嚢を形成せずに卵を産下し、数分後にはふ化する。

熱帯・亜熱帯気候のサトウキビ栽培地域に広く分布し、日本では小笠原諸島と南西諸島に分布する。本種の有益な天敵であるトビコバチ科の寄生蜂 *Anagyrus saccharicola* (体長: 雌1.5mm、雄0.9mm) が知られており、琉球列島のほか、台湾、フィリピン、マレーシアなどに分布する。国外では生物的防除資材として利用されており、ハワイにはフィリピンから天敵として導入され定着している。